

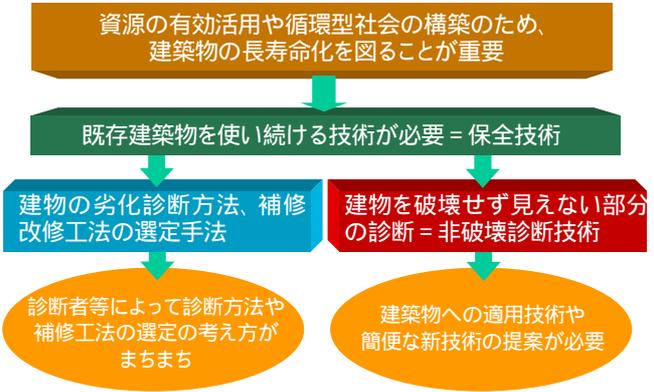
既存建築物の保全及び長期活用を目的とした 診断・改修技術に関する研究

共同研究機関名 室蘭工業大学、日本データサービス㈱
担 当 部 科 生産技術部生産システム科、技術材料開発科

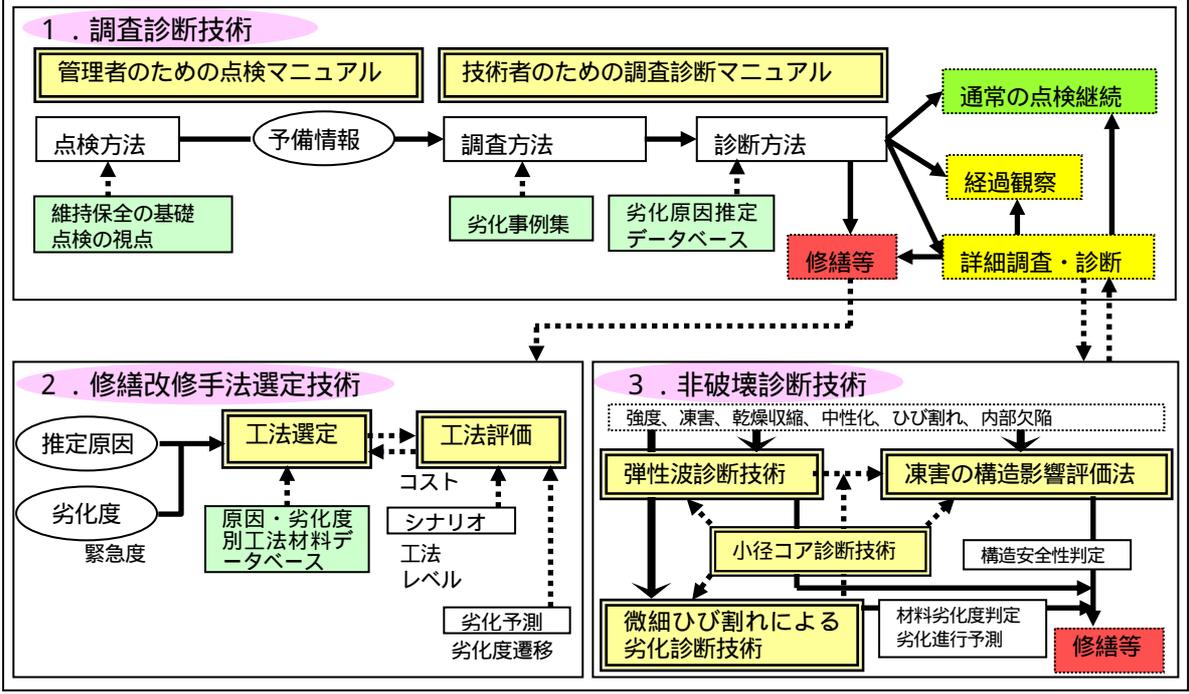
研究の目的

建築物を長期間活用するためには、適切な保全が欠かせません。そのためには、建物の劣化や障害の状況を的確に把握し、必要な修繕等の措置を講ずる必要があります。

この研究では、一般の技術者が実施可能な調査診断手法や修繕改修手法の選定方法をつくります。また、専門の診断技術者が活用する非破壊診断技術を提案します。



開発技術の概要



研究の取り組み

- ・一般技術者が調査・診断から修繕・改修を考える上で必要なマニュアルや、これに必要なデータの整備、試作を行っています。
- ・診断技術者が活用する新しい非破壊（微破壊）診断技術の提案に向けて、「マイクロクラックの計測による劣化診断・進行予測」、「凍害劣化による構造影響評価」、「弾性波診断技術」等の実験、研究を進めています。